

# エラスチン ペプチド

- 内容量：3g      ● 形 状：粉 末
- 価 格：2,800 円(税込 3,024 円)
- お召し上がり方：“コラーゲンペプチド”と一緒にお摂りください。
- 【栄養成分表示:100mg当たり】(推定値)

豚エラスチンペプチド……………100mg

“エラスチンペプチド”は、豚の動脈からエラスチンを高純度に抽出しペプチド化したので、分子量が小さく吸収性に優れ、食後 12 時間以内に 95 %が吸収されます。ブタのエラスチンは、アミノ酸組成がヒトのエラスチンと類似し、魚由来より高い機能性が期待できます。

## エラスチンとは

### お肌の張り と 弾力性に

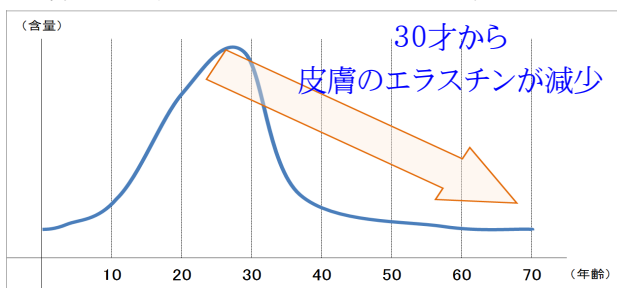
“エラスチン”は銅を必要とするタンパク質で、組織や臓器に弾力性を与えゴムバンドのような働きをします。

エラスチンは、皮膚の真皮・靱帯・腱・血管・肺・子宮・腎臓・弾性軟骨・眼の毛様体など伸縮性の必要な器官に広く分布しています。



「エラスチン」は主に「コラーゲン」同士を結び付ける働きを持つタンパク質で、コラーゲンが豊富にある状態で活発に活動します。コラーゲンは強度を提供し、エラスチンは組織の伸び縮みを可能にします。

エラスチンは20歳代後半をピークに減少するので、若々しい肌を保つための重要な栄養です。



## 細胞の伸び縮みを支える

エラスチン含有量は、靱帯で約 78 ~ 80%、動脈で約 50%、肺で約 20%、皮膚の真皮で約 5% を占め、心臓、膀胱、胃腸、子宮、腱、弾性軟骨などの弾力性を維持しているのがエラスチンです。その弾力性が失われると、お肌ではタルミ、肺では肺気腫、心臓では心肥大、血管では動脈硬化やくも膜下出血、胃では胃下垂、腎臓では遊走腎、子宮では子宮脱などの問題が発症してきます。

体は 60 兆個の細胞が一定の間隔で石畳のように引き詰められています。石畳がアスファルトより丈夫なのは引き埋めている“つなぎ”によりです。つまり細胞を丈夫に保つには、細胞間の物質の役割が重要なのです。その細胞間物質が「結合組織」と呼ばれています。新しい細胞の再生（若さを保つ）には、結合組織を丈夫にする事が大切です。

その結合組織は、コラーゲン・エラスチン・コンドロイチン硫酸などからできています。

### ◇ 骨・軟骨・皮膚の成分 ◇

(水分を除く) %	骨	軟骨	皮膚
ミネラル(カルシウムなど)	74	6	3.5
コラーゲン	26	58	87.5
エラスチン	-	+	2
コンドロイチン硫酸など	0.2	36	7

上記の成分表から分かるように・・・

- ◎皮膚の再生にはコラーゲン+コンドロイチン+ミネラル+エラスチンが必要。
- ◎骨粗鬆症にはカルシウムに、ミネラルとコラーゲン+コンドロイチンが必要。
- ◎腰痛や関節痛では“軟骨”がすり減って発症しますが、ミネラル+コラーゲン+エラスチン+コンドロイチンが必要。

上記の栄養成分は動物の骨・軟骨・皮に含まれるので、豚骨料理・フカヒレ・豚皮などを毎日、食べると良いと云われています。

秦の始皇帝が探した不老不死の材料は、もしかして、コラーゲン・エラスチン・コンドロイチンだったのかも…？！

### こんな方に、お勧めします

- \* シワ、たるみが気になる年齢の方
- \* 骨・軟骨・血管が弱い方

①：本品製造工程では乳、小麦、落花生、えび、かにを含む製品を製造しています。